

日本遺産構成文化財解説動画制作業務 対象構成文化財一覧表

笠間市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財所在地
1	りょうごんじさんもん 楞嚴寺山門	国重文 (建造物) 国重文 (彫刻)	宇都宮氏一族である初代領主、笠間時朝に始まる笠間氏の菩提寺。応安7年(1374)に建立された山門は禅宗様式の四脚門、切妻造りの茅葺屋根で簡素である。	笠間市片庭 761-4
2	りょうごんじ 楞嚴寺 もくぞうせんじゆかんのりゅうぞう 木造千手観音立像	国重文 (建造物) 国重文 (彫刻)	宇都宮氏一族である初代領主、笠間時朝に始まる笠間氏の菩提寺。臨済宗妙心寺派の寺院。時朝の刻銘がある、木造千手観音立像が納められている。	笠間市片庭 775
3	かさまうじるいだい ぼち 笠間氏累代の墓地	市史跡	笠間氏は鎌倉時代から約380年にわたり笠間を領し、18代続いた。大小さまざまな五輪塔18基はその領主たちの墓石と考えられ、正面中央にある欠損部分を持つ宝篋印塔が初代、笠間時朝のものとされる。	笠間市片庭 782
4	さんしょじんじゃ 三所神社	未指定 (建造物)	建長2年(1250)に笠間時朝により、宇都宮の二荒山大明神の分霊を祀り、笠間城の鎮守にしようと創建された笠間の総鎮守社。文明9年(1477)笠間城主笠間綱久が三所神社の修築完成を祈願して四神旗を寄進したとされる。	笠間市笠間 353
5	もくぞうみるくぶつりゅうぞう 木造弥勒仏立像	国重文 (彫刻)	宝治元年(1247)制作、木造漆箔玉眼入りで二重円光の光背を持つ。中国宋朝様式と慶派様式が確立された時代の一典型を示す作品。像内墨書銘により笠間時朝発願による作品であることが分かる。	笠間市石寺 464
6	もくぞうやくしよらいうりゅうぞう 木造薬師如来立像	国重文 (彫刻)	建長5年(1253)制作、木造漆箔玉眼入りで舟形光背をもつ。背面下方に刻銘があり、笠間時朝の発願により制作されたものであることが分かる。	笠間市来栖 2696
7	いなだじんじゃ 稲田神社	未指定 (建造物)	律令制以前に常陸国西部を治めたとされる新治国造が奉斎した神社とされる。鎌倉時代中期、笠間時朝は鎌倉幕府6代将軍宗尊親王の和歌の師範であった藤原光俊や宇都宮泰綱らを招いて奉納歌会を催した。本殿北側には笠間時朝の歌碑が残されている。	笠間市稲田 763
8	くのとうえん 久野陶園	未指定 (建造物)	安永年間(1772~81)に久野半右衛門が創業した窯元。後に笠間藩主・牧野貞直によって仕法窯に指定される。笠間焼発祥の地であり、益子焼の陶祖、大塚啓三郎が製陶技術を学んだ。	笠間市箱田 1804

9	かさまやきはっしょう 笠間焼発祥に かか のぼりかま 係わる 登窯	市史跡	安永年間(1772～80)に久野半右衛門が近江国信楽から来た陶工・長右衛門の助言と指導を受けて築いた登り窯。	笠間市箱田 1804
10	ほうだいいんさんもん 鳳台院山門	市有形 (建造物)	益子焼の陶祖、大塚啓三郎が寺子屋教育を受けた寺院。世界最大級の達磨大師像がある曹洞宗寺。山門は総檜材の四脚門で、親柱は円柱で柱の内側には板扉がある。屋根は茅葺き切妻造りであったが修繕を行い、銅製瓦葺きとなった。柱や頭貫までの浮彫りは見事である。	笠間市箱田 2458
11	かさまじょうあと 笠間城跡	市有形	佐白山周辺に築かれた山城跡。承久元年(1219)に笠間時朝が築城し、戦国末期まで18代にわたり笠間を治めた。江戸時代、笠間藩主・牧野貞直のときに久野陶園等を御用窯とし、歴代藩主は笠間焼の産業振興に努めた。	笠間市笠間 3613 外
12	かさまじょうやぐら 笠間城 櫓	県有形	佐白山周辺に築かれた山城跡。承久元年(1219)に笠間時朝が築城し、戦国末期まで18代にわたり笠間を治めた。旧八幡台櫓は総ヒノキ材の二層入母屋造の瓦葺きの白壁塗りで、江戸時代の城郭建築の様式を踏まえている。	笠間市笠間 323
13	いばらきけんりつかさまとうげい 茨城県立笠間陶芸 だいがっこう 大学校 きゅういばらきけんようぎょう (旧茨城県窯業 しどうしょ 指導所)	未指定 (建造物)	昭和25年(1950)に茨城県窯業業指導所が設立され、技術開発や人材育成、見本市出品により笠間焼の復興と発展に寄与した。平成7年(1995)現在地に新築移転、平成28年(2016)茨城県立笠間陶芸大学校と改称し、現代陶芸をリードする陶芸家を育成する教育研究機関として一新した。	笠間市笠間 2346-3
14	まついこうせい 松井康成作品	未指定 (工芸品)	重要無形文化財「練上手」保持者に認定された松井康成の作品。伝統技術を基盤にした創造性豊かな陶芸の在り方を示して、後進の作家に大きな影響を与えた。	笠間市笠間 2345 (茨城県陶芸美術館)
15	しゅんぶうばんりそう 春風萬里荘	未指定 (建造物)	笠間芸術の村を代表する施設。万能の異才、北大路魯山人の北鎌倉にあった旧宅を昭和40年(1965)に移築した。江戸時代中期に建てられた茅葺き入母屋造りの古民家。	笠間市下市毛 1371-1
16	かさまいなりじんじゃ 笠間稲荷神社 ほんでん 本殿	国重文 (建造物)	白雉年間(650～661)創建とされ、殖産興業の神として篤く崇敬された神社。江戸時代、笠間藩主牧野家は土地や祭器具等を寄進し、篤く信仰した。本瓦型銅板葺きの総檜造りの本殿には、名匠による彫刻が施されている。	笠間市笠間 39

17	<p>たな かともさぶろう 田中友三郎 しょうとくひ 彰徳碑</p>	<p>未指定 (石造物)</p>	<p>中興の祖、田中友三郎は陶器製造組合や陶器伝習所を設立し、益子焼との共同出荷による販路拡大や人材育成等、笠間焼発展に貢献した。明治 33 年（1900）地元陶工が功績を称え、工場敷地内に碑を建立した。碑はその後田中家墓地に移され、さらに平成 10 年(1998)笠間工芸の丘竣工を機に移転した。</p>	<p>笠間市笠間 2388-1 (笠間工芸の丘)</p>
----	--	----------------------	---	----------------------------------

益子町

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財所在地
1	益子古窯跡群 (西山・本沼窯跡群、 原・境窯跡群、 栗生窯跡群)	町史跡 未指定 (史跡)	8世紀から10世紀にかけて、13基の窯跡(1基は瓦窯跡他は須恵器窯跡)がある。尾根筋から3群に分かれる。	益子町上大羽 2052 (個人宅) 付近
2	地蔵院本堂	国重文 (建造物)	永正年間(1504~1521)に宇都宮家3代朝綱建立の菩提寺尾羽寺の阿弥陀堂として建てられた。柿葺き型銅板葺き。	益子町上大羽 945-1
3	宇都宮家の墓所	県史跡	宇都宮朝綱が整備した尾羽寺に残る宇都宮家累代の墓。改易後も当主が祀られ続け、初代から33代までが眠る。	益子町上大羽 940
4	綱神社 (摂社大倉神社含む)	国重文 (建造物)	宇都宮家菩提寺尾羽寺の土地に建てられた神社。宇都宮朝綱が配流先の土佐の一の宮・加茂神社を勧請して、建久5年(1194)建立。	益子町上大羽 943
5	西明寺 (三重塔、楼門、 本堂内厨子)	国重文 (建造物)	天平9年(737)創建と伝わる古刹。宇都宮氏家臣益子氏の建立の三重塔、楼門、本堂内厨子があり、境内には陶祖大塚啓三郎の碑がある。	益子町益子 4469
6	西明寺 (仏像群)	県指定ほか	本堂厨子内仏像群、千手観音菩薩立像、千手観音菩薩坐像、閻魔大王坐像と脇侍像	益子町益子 4469
7	円通寺表門	国重文 (建造物)	唐様四脚門様式。応永9年(1402)建立。円通寺は宇都宮氏、益子氏が大胆那となり浄土宗名越派本山として栄えた。	益子町大沢 1770
8	根古屋窯 (旧益子陶器伝習所)	未指定 (建造物)	益子の窯業発展に尽力した大塚啓三郎が開業した窯元。初代陶器伝習所の建物の一部が残る。	益子町益子 864
9	陶祖顕彰碑	未指定 (古碑)	益子の窯業発展に尽力した陶祖大塚啓三郎の功績を後世に伝えようと明治12年(1879)に地元陶工たちが建てた。碑文は元笠間藩士、加藤桜老の撰による。	益子町益子 4469 (西明寺)
10	岩下製陶(太平窯) 登窯	町有形 (建造物)	民藝運動が広がる以前の明治末期~大正初期創業の窯元の登り窯。関東以北で最大。	益子町益子 3070
11	山水土瓶 (益子焼初期作品)	未指定 (工芸品)	民藝運動が広がる以前の江戸末期~昭和初期頃の益子焼。絵師の皆川マスの作品は民藝運動とともに注目された。	益子町益子 3021 (陶芸メッセ)

12	きしゃどびん 汽車土瓶 (益子焼初期作品)	未指定 (工芸品)	益子焼が東日本に広まったことを示す代表的な焼き物。東日本を中心に33駅で、駅弁の普及とともに広まった。駅名と販売店名が記されている。	益子町益子 3021 (陶芸メッセ)
13	あしぬまいしきいくつじょう 芦沼石採掘場と 益子の柿釉	未指定 (文化的景観)	柿釉の原料である芦沼石（凝灰岩の一種）の採掘場。芦沼石はもともと建材として使われていたが、菊池窯で釉薬に使えることが分かると、釉薬としての利用を伸ばした。芦沼石は単独で柿釉を作れ、柿釉に木灰を混ぜれば黒釉も作れるため、益子焼には欠かせない釉薬の原料となった。	益子町芦沼 914 付近ほか（仮）
14	はまだしょうじ 濱田庄司作品	町有形 (工芸品)	民藝運動の中心的人物であり、益子焼に変化をもたらせた濱田庄司の作品。	益子町益子 3388 (益子参考館)
15	しまおかたつぞう 島岡達三作品	町有形 (工芸品)	濱田庄司を師とし、重要無形文化財「縄文象嵌」保持者に認定された島岡達三の作品。	益子町益子 3021 (陶芸メッセ)
16	ましこさんこうかんうんたい 益子参考館上台（旧 濱田庄司邸離れ）・ 益子参考館細工場	県有形 (建造物) 町有形 (建造物)	濱田庄司が住み、作陶した建物を利用した民藝館。蒐集した世界各国の民藝品や濱田と交流のあった人物の作品が展示されている。 上台には民藝の趣向をこらした意匠が施され、濱田庄司が益子の職人に作らせた階段箆笥などの調度品の数々が置かれており、民藝のすがすがしさを体感できる。	益子町益子 3388 (益子参考館)
17	ましこさんこうかんのぼりがま 益子参考館登り窯	町有形 (建造物)	益子参考館内に建てられた登り窯2基。1基は濱田が愛した釉薬の一種、塩釉専用の窯。また、もう1基は東日本大震災で崩れたが、平成27年に復活し、以後3年に1度、窯焚きイベントを開催し、笠間と益子の陶芸家の絆を深めている。	益子町益子 3388 (益子参考館)
18	きゅうはまだしょうじていおもや 旧濱田庄司邸母屋	町有形 (建造物)	濱田がすこやかな生活をおくるために農家の母屋を移築した母屋兼作業場の建物。現在は、陶芸メッセに移築されている。	益子町益子 3021 (陶芸メッセ)
19	ひげたあいぞめこうぼう 日下田藍染工房 (日下田邸（染色工房併 用）・藍染め甕場・ 草木染)	県有形 (建造物) 県有形民俗 県無形	江戸時代から続く紺屋。民藝運動に共感し、民藝調の藍染めをはじめとする草木染作品を現在も作り続けている。	益子町城内坂 1